

平成23年7月新潟・福島豪雨の記録



山口土木事務所
業務課 技師 安部智昭

国道252号の災害復旧工事について(途中経過報告)

施工場所: 南会津郡只見町大字田子倉～石伏地内

1. 概要

国道252号は、新潟県と福島県を結び、物流・観光・住民生活の各分野において、欠くことのできない重要な路線である。

ところが、平成23年7月27日～30日にかけて発生した新潟福島豪雨により、道路崩落や法面崩壊など甚大な被災を受け、両県の県境を挟み、L=27.7km通行止め(福島県側L=14.4km)となった。

このことから、一日でも早い再開通を目指し、災害復旧工事を実施した。

2. 経緯・課題

- ・豪雨により、国道252号の只見町大字田子倉～石伏地内で法面崩落等の被災が複数箇所が発生したため、7月29日から通行止めとした。
- ・同様に新潟県と福島県を結ぶJR只見線も運休となり、新潟県から只見町へと通学する高校生の通学手段が絶たれた。また、本路線を利用して、新潟県に通院する只見町民もあり、その手段もなくなった。
- ・当区間は県内でも有数の豪雪地域であり、例年11月中旬から5月上旬までは冬期通行止めとなる。その期間は雪崩の懸念があるため、工事には着手できず、工事期間は半年間と限りがある。

<経緯>

平成23年7月27～30日	新潟福島豪雨発生
平成23年7月29日	国道252号 雨量超過により通行止め
平成23年8月2日	複数箇所の被災を確認
平成23年10月28日	大赤沢1工区 応急工事着手
平成24年6月4日	魚沼市議会や地元商工会への現地説明会
平成24年6月28日	船着き場まで部分再開通
平成24年7月23日	新潟県魚沼市～福島県只見町 全線再開通

被災位置図



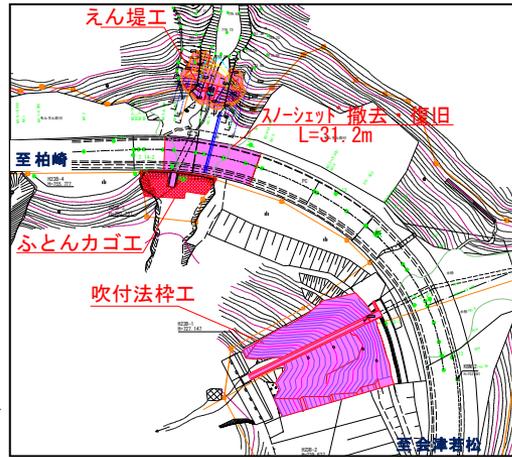
被災時状況写真



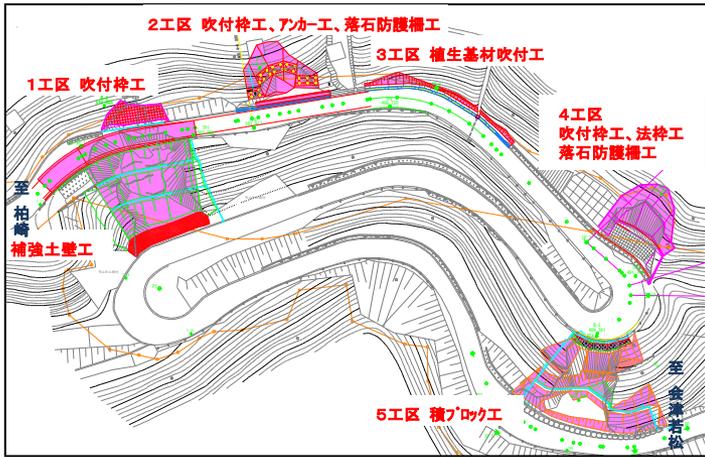
3. 内容

- 【全体事業費】4億6千万円(7箇所合計)
- 【事業期間】平成 23～ 25 年度
- 【事業内容】 〈H25.1末進捗率〉
- 〔入山1号〕 スノーシート撤去・復旧、えん堤工、吹付砕工(92%)
- 〔入山2号〕 吹付砕工、鉄筋挿入工(100%)
- 〔入山3号〕 吹付砕工(100%)
- 〔後山1号〕 吹付砕工、鉄筋挿入工(100%)
- 〔後山2号〕 植生基材吹付工(100%)
- 〔大赤沢〕 補強土壁工、吹付砕工、アンカー工、落石防護柵工、積ブロック工(80%)
- 〔向山〕 植生基材吹付工(80%)

《入山1号工区》



《大赤沢工区》



スノーシート架替え状況



工事完了状況



4. 進捗状況・創意工夫

- ・ 現在、通行止めの原因となっていた箇所については、工事が完了し、他機関協議に時間を要した法面工の一部のみが残っている。
- ・ 本区間は春先除雪区間であり、その完了時期が災害復旧工事の各現場に大きな影響を与える。大赤沢工区は、全幅崩壊により、車輛が全く通行できない状態であったが、降雪期前に応急工事で、一車線分の盛土を完了させ、ローター車の通過を可能とし、春先除雪完了に遅延を生じさせなかった。

・ 入山1号工区では、当初、スノーシートを撤去し、上部工を設置する前の開放した状態でえん堤工を施工する予定であった。しかし、早期の再開通のためには、えん堤工を待たずに、スノーシートを優先的に完了させる必要があった。そこで、えん堤工は、スノーシートの外側に仮設道路を設け、そこからコンクリートポンプ車の打設を行うこととした。これにより、再開通時期を想定より2ヶ月早めることが可能となった。

5. おわりに

- ・ 本区間では、災害復旧工事と維持工事を合わせると15工事が同時に動いており、各工事ともに交通規制を伴うものが多かったため、工程表をひとつにとりまとめ、それぞれの工事で支障が出ないように工程調整を図ることに苦心した。
- ・ 再開通時期が早まり、夏休みの観光シーズンに間に合ったことで、地元の観光や物流に寄与することができた。

